

天満宮由緒

一、当社の由来

天保七年(皇紀二四九六年)仁孝天皇朝 十一代將軍
徳川家齊(南恩加島岡拓の祖岡島嘉平次氏其の
郷土の氏神道明寺天神を勧請して当町の東北端
(豆敷の方所謂鬼門にして最も神聖なる方角)にお祭り
されまゝたが大坂市都市計画により昭和三十三年
四月二十五日現在地に奉遷されまゝた

二、祭神

菅原道真公

(本社) 稻荷社

夏祭 七月二十四日 二十五日

歳旦祭 (一月一日) 節分祭 (二月三日)

春祭 (四月二十音) 秋祭 (十月三音)

三、御神徳

古来天満天神と稱へ鎮護国家の威靈として又一切の
願望を成就せしめられる慈悲救済の神として
崇められ特に文道の大祖(字同の神祇)諸道藝能
の守護神として崇敬を受けておられます

四、氏子崇敬者

大正区の南半部即ち南恩加島町(平尾町一部)
全域の氏子を以て天神講を組織し多数の講員
があります

菅公御詠

海ならずたゞる水の底までも
きよきこころは月ぞてらさむ

天満宮

大阪市大正区南恩加島一十三四一
電話五五一―五六六八